

中田かわら版 8月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<45>

「みどりのおばさん」32年

飯島 ツルノさん (73歳) ひがしが丘



昭和61年7月、婦人交通整理員に採用されてからもう32年にもなる。「みどりのおばさん」と言ったほうが通りがいいでしょう。中西から萩丸に抜ける路の中ほどに中下入り口がある。ここで毎朝通学の児童に声を掛けていました。道幅が狭い上に変則5差路になっている。通学路への車両規制もなく交通量も多い。近頃一部道路を直したが、朝急ぐ車に譲り合いが無い。飯島さんは「みどりのおばさん」制度が廃止になっても中田地区交通安全協会の会員として今も子どもの見守りに立っている。

寒い雪の朝や強い雨風の朝は「今日ぐらい休もうかな」と。でも子どもたちのほうがもっと危ないだろうと思い直すのだ。そんな姿を見かねたご近所の方が風雨除けの可愛い小屋（立ち番ボックス）を作ってくれた。おかげで寒い日には湯たんぽを持って行くことができるようになったし雨の日には手荷物も置けるようになった。飯島さんがそのボックス付近の道路添いや川淵に沿って、可愛い花を植えたのは感謝の気持ちの現れかも。「その時に川に転落しちゃいました」とも明かしてくれた。

そんな悲喜こもごものなかで、実は大忙しの毎日なのです。10年前からデイサービス「ファミリーつる」を開設し、5年前からは息子さん娘さんがリハビリテーションセンター「ファミリーつる」を開設した。利用者さんの中には高齢故かほとんど食べようとしない人がいる。食べてもらわなければ命が繋がらない。何よりも「食べてもらう」ことを優先して料理を勉強した。幸いな事にご主人が菜園で野菜作りをしていたので愛情イッパイ、太陽の恵みタップリの食材が手に入りました。90歳過ぎのほとんど食べない利用者さんがこの野菜料理を全部食べてくれたときは涙が止まらないほど嬉しかったと話す。

九州、有明海から西を望めば大きな山がどっかりと座っている。南側は雲仙岳1486m。北側に並ぶのは多良岳996m。両山の真ん中がかの諫早湾。山から流れるミネラルを受け止め、日本一の干満差を誇る有明海。栄養豊富な海は極上の魚介類を育む。飯島さんは多良岳を背に有明の海を望める蜜柑農家の出身。農家の手伝いをしながらも遊びは楽しい魚貝獲り。ワタリガニの仲間の竹崎蟹（多比良蟹）は有名だ。料理屋さんや何軒もある。故郷の佐賀を語る時の視線が気持ち斜め上になる。

見守りの活動を続けているある日、昔自転車乗りが危なっかしくてよく注意の声掛けをした子が、大人になってから会いに来てくれた。子供ができましたと言って元気な赤ちゃんを見せてくれた。あるいは中学生になった子が恥ずかしそうに夢を語りに来てくれた。大人になってもみどりのおばさんは「自分の叔母」さんなのだ。こんな時、交通整理員をやっていてよかったなあ…とつくづく実感すると。

成人して東京自由が丘のブティックに勤めたツルノさんはお洒落な街と田舎との落差に驚いているうちにご主人になる飯島猛旦さんを紹介されたよう。現在ご主人は中田社協の会長。飯島ファミリー全員でこの中田が「みんなが住みたくなる街」作りに取り組んでいる。

(編集委員 松本 正)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

9月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【平成30年度敬老会】

日程 9月17日(月)祝日

式典 12:30~13:00

演芸 13:00~14:30

場所 中田小学校体育館

対象 満75歳以上の方

内容 舞踊・民謡

中田中学校吹奏楽部

の演奏

【中田御霊神社例大祭】

▶9月23日(日) 本年は短縮経路による神輿渡御、及び山車曳です。
鳥居前道路の歩行者天国化は10:00~22:00です。

☆11:00~例大祭式執行

☆13:00~御神輿の宮出し、山車曳き出発

☆15:00 御神輿の宮入り

☆17:00~18:10 中田囃子演奏

☆19:00~21:00 頃迄、芸能人による奉納演芸

※出演者は、走裕介、寿美、中西りえ3名の演歌歌手です。



寄稿

傾聴ボランティア・モモ

(三島 教子)

私たちは2007年(平成19年)に有志4人によって立ち上げられた「傾聴ボランティア・モモ」です。名前の由来は不思議な少女モモに話を聞いてもらおうと、町の人々は幸福な気持ちになったというドイツの作家ミヒャエル・エンデによる名作「モモ」から。そのころは「傾聴」が周知されていないこともあり施設の方々などに傾聴活動を理解していただくところからスタートしました。

10年経った今、会員数も53名(男性8名、女性45名)となり、多くの施設や個人のお宅から依頼をいただき会員一同やりがいを感じています。

人は心の中にあるモヤモヤを言葉にして話すことにより孤独から解放されることはもちろん、すっきりしたり、思い違いだったことに気づいたり、自分で解決の糸口を見つけたりできるのです。私たちは利用者さんのいろいろなお話を肯定も否定もせず心に寄り添いながらひたすら聴かせていただきます。すると利用者さんから「聴いてくれてありがとう」「またきてね」「気をつけて帰ってね」などの言葉をいただくのです。これらの言葉は私たちにとって最高のご褒美であり次回への活力になっております。

もちろん、傾聴は簡単にできることではありませんので、私たちはきちんとした傾聴と人間力を身につけるために、毎月会員同士による勉強会と活動に必要な知識を専門講師から学ぶなど平日頃から努力しております。傾聴ボランティア・モモに入会するためには、モモの主催する養成講座を受講し修了書を手にし、毎月行われる定例会に出席、ボランティア活動ができる人が対象となります。

現在は高齢者施設、デイサービス、病院、個人宅、障がい者支援施設、グループホームなどに伺っております。施設側からは活動者を増やしてほしいとの要望がありますが十分にお応えできないのが現状です。モモでは傾聴活動の他、親睦会などで会員間の交流も、年3回会員向けの「モモ通信」を発行しております。設立してから多くの方々のご理解、協力で10年が過ぎましたが、これからも皆さまのお役に立てるよう精進したいと思っております。

また昨年までにモモの活動に対して神奈川県社会福祉協議会、横浜市社会福祉評議会、泉区社会福祉協議会から表彰を受けました。



「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス!!